

# ムーンショット型研究開発制度に係る 戦略推進会議(第8回)の報告について

ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議(第8回)

1. 日 時: 令和5年3月24日(金)10:00~12:00
2. 場 所: 中央合同庁舎第8号館6階623会議室(ウェブ会議)
3. 議 題: 目標1、2、3、6、7、8、9における進捗・自己評価の報告について

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 未来革新研究推進担当

# 戦略推進会議について

## 設置趣旨

研究開発の戦略的な推進、研究開発成果の実用化の加速、関係府省や関係研究推進法人の間の効果的な連携・調整を図るため、**産学官から構成される戦略推進会議を設置。**

## 役割

- (1) 原則として、毎年度、研究推進法人から進捗等の報告を受け、ムーンショット目標の達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、**プロジェクト構成の考え方、資金配分の方針等に関して承認・助言**を行う。
- (2) **研究開発成果の橋渡し、民間との連携、官民の役割分担を踏まえた適時の民間投資の呼び込みを含め、研究開発成果の社会実装に向けた方策を助言**するとともに、**研究開発成果の社会実装等に関する支援**を行う。また、国際連携を促進するための助言も行う。

## 戦略推進会議

助言等

報告

**JST**

(科学技術振興機構)

**NEDO**

(新エネルギー・産業技術総合開発機構)

**BRAIN**

(生物系特定産業技術研究支援センター)

**AMED**

(日本医療研究開発機構)

### 【構成員】

産学の有識者、関係府省

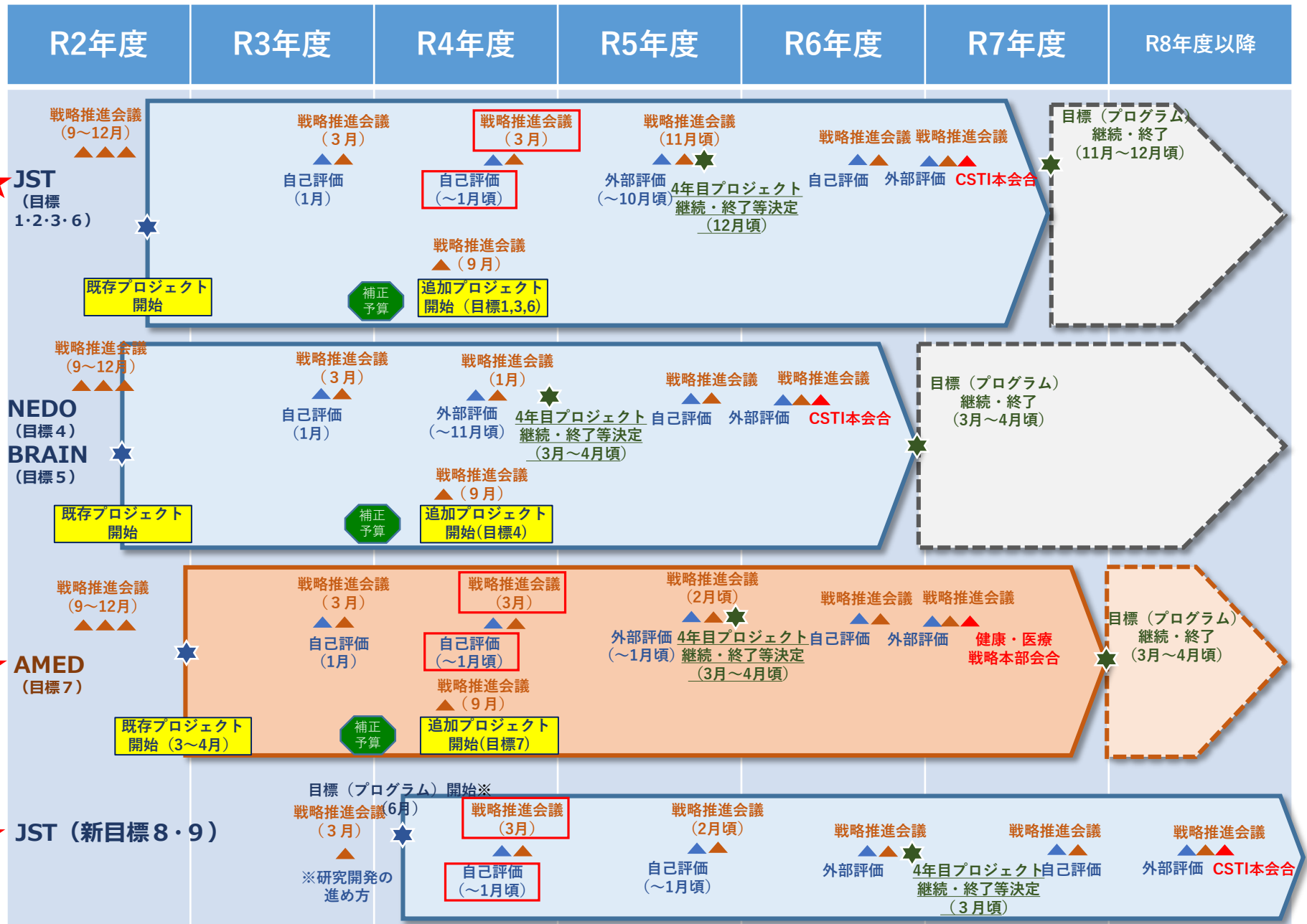
### 【助言等事項】

- ・プログラム構成の考え方
- ・資金配分方針
- ・社会実装等の方策
- ・国際連携促進等

### 【開催頻度】

年2～3回程度開催

# 戦略推進会議のスケジュールについて①



# 第8回戦略推進会議の進め方

## ムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針（抜粋）

- 研究推進法人は、外部有識者による評価体制を構築し、外部評価を実施する。
- 外部評価の実施時期は、原則として、研究開始時点から3年目及び5年目とし、5年を越えて継続することが決定した場合には、8年目及び10年目とする。プロジェクトの特性に応じ、研究推進法人が評価時期を早める必要があると認める場合には、あらかじめ適切な時期を設定する。
- 研究推進法人は原則として毎年度（外部評価を行う年度以外）、次項で定める評価基準を踏まえて自己評価を行い、その結果を戦略推進会議及び関係する構想を策定した関係省庁に報告する。その際、必要に応じて外部有識者の意見も聴くこととし、その場合には、併せてその意見の内容や自己評価への反映の状況を報告する。

## 第8回会議の議論

- 目標1、2、3、6、7は、研究開始から約2年が経過。JSTとAMEDが、2年目の自己評価を実施。
- 目標8、9は研究開始から約1年を迎える。JSTが1年目の自己評価を実施。
- JST及びAMEDから以下の事項について説明
  - プログラムを構成する各プロジェクトの進捗
  - プログラム（※）に対する、研究推進法人による自己評価（※各プロジェクトの評価を踏まえたプログラムの評価）
  - 今後のプログラムの方向性 等
- JST及びAMEDに対して助言等

ムーンショット目標達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、

  - 研究開発の進捗、今後の進め方に関する助言
  - 研究の成果の橋渡し、民間との連携等社会実装に向けた方策、国際連携の推進に関する助言
  - その他、気づきの点に関する助言

# 目標1

「2050年までに、人が身体、脳、空間、  
時間の制約から解放された社会を実現」

## 戦略推進会議

令和5年3月24日

プログラムディレクター

萩田 紀博

(大阪芸術大学 教授)

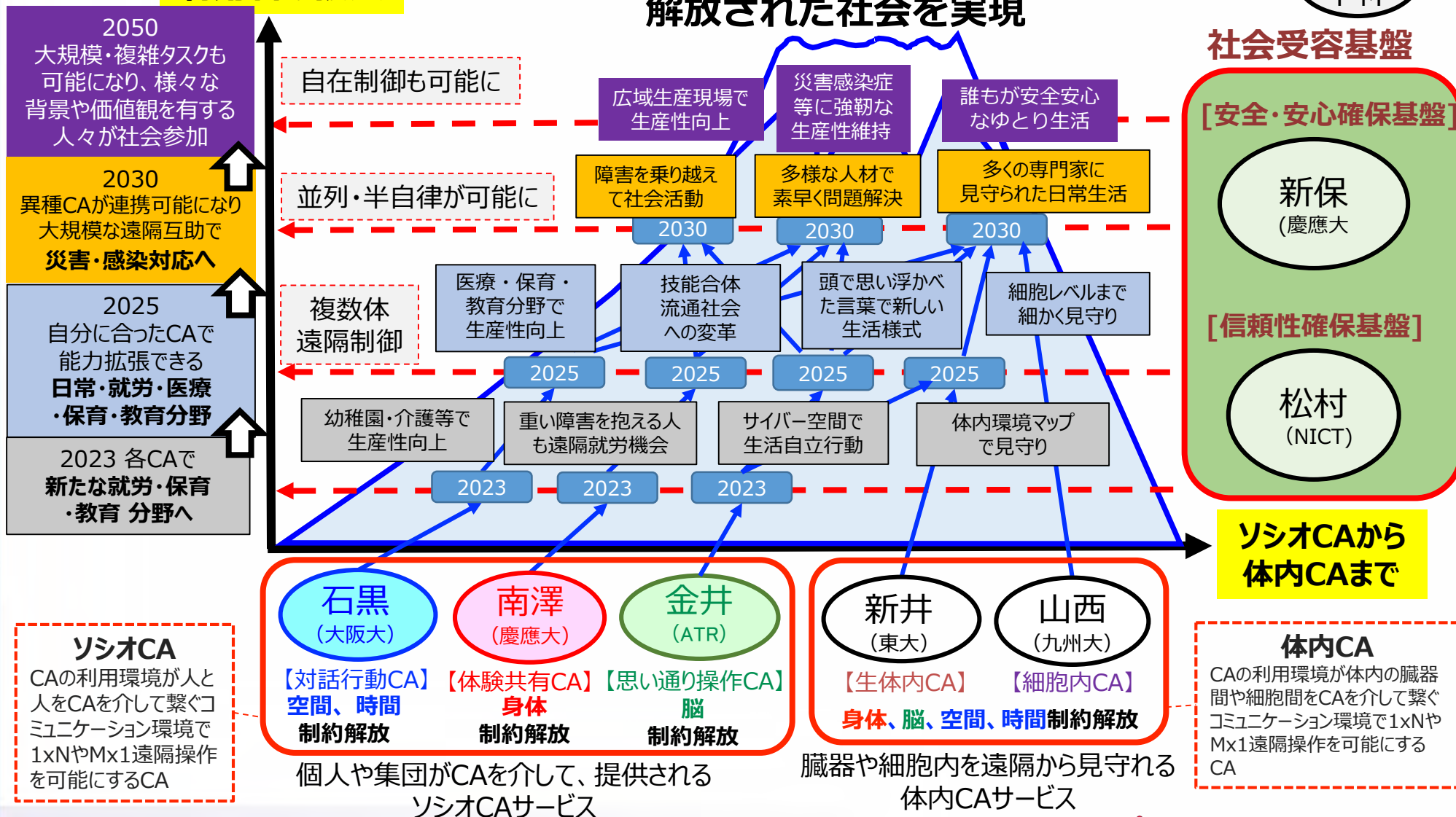
# 3. プログラムの構成

人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

CA利用分野・  
利用者の拡大

追加  
PM

社会受容基盤





# 4.プログラムの進捗・成果

空間、時間の制約からの解放を目指す  
石黒PM

**2023年の課題:【主婦・主夫や高齢者等が新たな社会活動の参画が可能に】** 幼稚園、小学校、介護施設、病院、家庭等で、主婦・主夫や高齢者が、複数の対話行動CAを連携・協調することによって、園児、児童、生徒、高齢者、患者等の利用者を相手にモラルある対話や行動で、幼児保育、初等教育、定型的問診等を実現できる。

- 2023年の課題に向け、高齢者にも優しい複数体の対話行動CAを操作するインターフェースを開発。
- 企業と連携した実証実験を2023年度に向けた様々なフィールドで実施。2021年実施した短期実証実験で懸念される開始時のCAの珍しさや興味本位による有効性を排除し、本来の対話行動CAの有効性を長期実証実験で検証。
- ジェスチャーなど人が苦手な所作を超える存在感CAの開発。デジタル大臣のアバターによる社会実験とCA利用啓蒙(10月～)。
- 人間が知覚する合成音声の自然性の評価と、非言語音声(笑い等)からの感情の予測で、2つの音声系国際コンペティション (INTERSPEECH(3月)、ICML(7月)) で第1位。CAによる共有笑いの生成は英国の主要なメディアでも掲載(9月)。
- 大規模実証実験で利用可能なプラットフォームアーキテクチャを策定し、相互接続性・拡張性・カスタマイズ性を考慮したCA基盤の初期プロトタイプを構築。



デジタル大臣のアバターによる社会実験とアバター利用啓蒙



受付・案内サービス



空港おみやげ店商品推薦サービス



発達障がい児教育支援  
区役所での案内  
小学校での授業支援